

ニュースリリース

平成 20 年 7 月 17 日
井関農機株式会社

農研機構と肥料・農薬を大幅に節約できる 露地野菜作向け「うね内部分施用機：UBS21(仮称)」を開発

当社は、(独) 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）とキャベツ・ハクサイ栽培のうね立て作業時に、苗を移植する位置付近の土壤に肥料や農薬を攪拌しながら帯条に施用する「うね内部分施肥技術」を開発し、このたび、「うね内部分施用機」を試験販売することとなりました。

農研機構は、施肥および農薬の効果を保ちつつ減化学肥料・減農薬を実現できる技術として「うね内部分施用法」を開発し、肥料を慣行の 70%~50%に、根こぶ病防除用の農薬を約 1/3 に削減できることを明らかにしております。

UBS21（仮称）



用途	畦立て（3 畦）同時
特徴	環境にやさしい、低コスト 肥料は従来の 30%減、農薬は 50%減が可能
適用機	23PS~33PS トラクター（当社 AT23~AT33）
希望価格	116 万 5500 円（予定）
販売開始	7 月末試験販売（来年度本格販売）



肥料・農薬混合部

キャベツやハクサイ等葉菜類生産において、うね中央部の作物に効果がある範囲だけに肥料や薬剤を混合。

[本件に関するお問い合わせ先]

営業本部インプル部

03-5604-7604

[リリースに関するお問い合わせ]

I R ・ 広報室

03-5604-7709

以上

うね内部分施用機 トラクタアタッチメント

UBS21 (仮称)

「(独)農業・食品産業技術総合研究機構の研究成果を活用して開発した商品」

**肥料・農薬が少なくなり、コストが下がる。
しかも環境に優しい。**

キャベツやハクサイ等葉菜類生産において、うね中央部の作物に効果がある範囲だけに肥料や薬剤を混合。
従来対比、肥料は30%程度の低減ができます。



肥料・農薬混合部



薬剤・肥料タンクレイアウト



薬剤タンク(前方:40kg 1個):振動装置付

・根こぶ病防除剤(ネビジン等粉状資材用)

肥料タンク(左右:各50kg):左右独立調整も可

・粒剤散布用...2種の肥料を同時散布可能。(オプション要)

<オプション>

- ・かさ上げフレーム(肥料タンク位置 30 cmアップ用)
- ・肥料左右独立調整式コントロール BOX

部分施肥・施薬



板爪を円周状に配置し、ナタ爪で攪拌します。
外にこぼれることなく畦中央部に混合散布されます。

●仕様諸元

全長×全幅×全高(mm)	1170×2060×1610
重量 (kg)	325
施肥ホッパー容量 (kg)	50×2
施肥繰出し方式	ロール繰出し方式
施薬ホッパー容量(kg)	40
施薬繰出し方式	振動併用羽根繰出し方式
うね幅調整 (cm)	55・57.5・60・62.5・65
適応トラクタ	AT23～33PS(バランスウエイト必要)

ISEKI

井関農機株式会社

〒116-8541 東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号

この商品の開発に当たっては、(独)農業・食品産業技術総合研究機構の「特許名：畝内带状攪拌施用機、特許番号：第3806735号」が利用されています。

試験成果等につきましては、中央農業総合研究センターのホームページをご確認下さい。(ホームページアドレス <http://narc.naro.affrc.go.jp/>)